

葛尾村里山再生モデル事業の概要

モデル事業の目的

- 村民が安心して生活できる環境づくり
- 事業成果について原子力災害を受けた里山の再生に寄与

モデル地区概要

- モデル地区：村営住宅団地周辺（葛尾村大字落ち合い字西ノ内、関下地内）
- 区域面積：約33haうち森林約26ha(国有林約2ha、民有林約24ha(うち村有林約7ha))

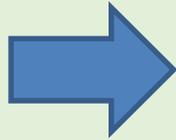
事業の内容

除染（H29年度）

- アスレチックコース、散策道、ベンチ周辺の計4,430m²について除草、堆積有機物除去、堆積有機物残さ除去を行いました。



除染実施前



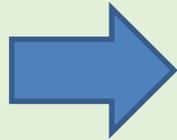
除染実施後

森林整備（H29年度）

- 国有林及び民有林において、ヒノキ人工林の間伐（民有林：間伐率13%・2.94ha、国有林：間伐率27%・0.65ha）を実施しました。
- カラマツ人工林（民有林）のつる切り（0.22ha）を実施しました。



実施前

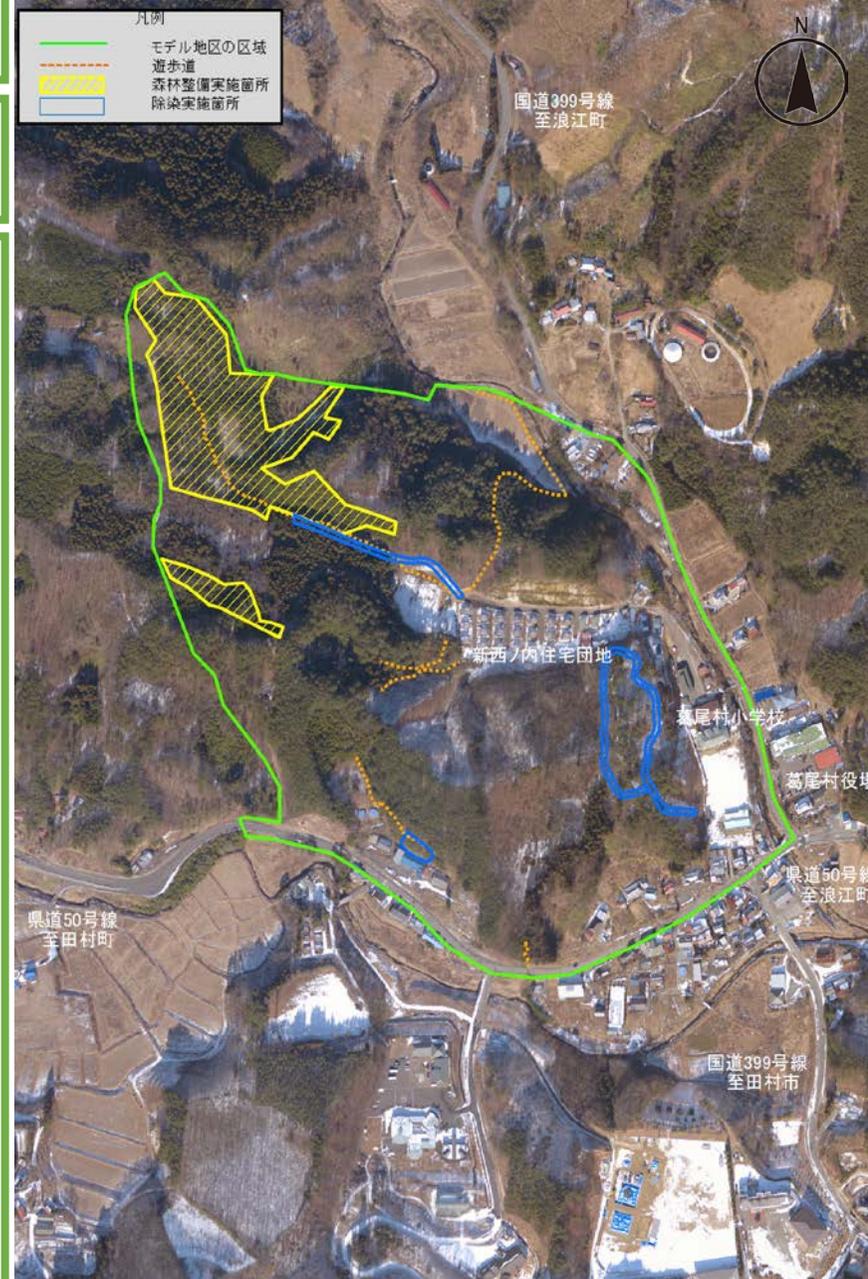


実施後

線量測定（H29～R1年度）

- H29からR1にかけて毎年モデル地区内の空間線量率を測定しました。（メッシュ測定：28（メッシュ数）、遊歩道等の歩行サーベイ：約4,075m 等）
- 空間線量率の測定にあわせて個人被ばく線量を測定しました。

<モデル地区の概況図>



葛尾村モデル事業の結果

除染の結果

○空間線量率（高さ1m）の平均値（単位：μSv/h）

| | 除染前 | 除染後 | 低減率 | （物理学的減衰率） |
|-----------------------|--------|---------|-----|-----------|
| | H29年9月 | H29年10月 | | |
| 33箇所平均 （アスレチックコース） | 0.55※ | 0.43 | 22% | (2.6%) |
| 14箇所平均（散策道） | 0.62 | 0.55 | 11% | (0.9%) |
| 4箇所平均（ベンチ周辺） | 0.41 | 0.35 | 15% | (0.8%) |

※H29年7月に測定



森林整備の結果

- 間伐等の森林整備により、地表面に光が届くようになり、下層植物の繁茂が見込まれ、表土の流出を抑制する効果や、根が土壌を保持する力が向上することによって、水源涵養機能、山地災害防止機能等の発揮が期待されます。
- 林内の倒木や枯損した立木、景観を損なう樹木を伐採・整理することによって、安全・安心・快適に散策できる森林空間に変化しました。
- 今回の森林整備によって延べ84人日以上雇用が生まれ、林業活動の継続が図られました。

線量測定の結果

※空間線量率は実測値を基にR1年8月1日を基準日として算出

【メッシュ測定】
地区平均(地上1m)は0.35 μSv/h、最大値は0.53 μSv/h、最小値は0.11 μSv/hでした。



【歩行サーベイ】
平均は0.37 μSv/h、最大値は1.21 μSv/h、最小値は0.11 μSv/hでした。



【個人被ばく線量】

村役場へのヒアリングを行い、想定される利用形態（滞在時間141分）を設定し、個人被ばく線量を測定しました。その結果、1回の利用に伴う個人被ばく線量は、0.0007mSv (0.7μSv) でした。

※胸部X線検査1回あたりの被ばく線量は0.06mSv (60μSv)

モデル事業の効果

- 除染によって線量が下がったことなどにより、村民が安心して生活できる環境づくりに寄与したと考えられます。
- 除染と森林整備を一体的に実施することにより、快適な森林空間を創出し里山の再生に寄与したと考えられます。